



NPO법인  
삼천리철도

NEWS LETTER

# 三千里

Vol. 23

2015年6月号

発行  
NPO法人 三千里鐵道  
〒441-0109  
愛知県豊橋市下五井町青木31  
TEL.0532-53-6999  
FAX.0532-54-4931

## 6.15宣言15周年を迎え

都相太

### もう一度、原点へ

NPO法人三千里鐵道の設立動機になった6.15宣言から早15年を経過しようとしています。

2007年5月には、念願であった南北の鐵路が連結されましたが、この8年間レールは錆に侵食され続けています。

2000年6月15日の南北共同宣言の内容を改めて確認し、この15年間の経過を検証することも意味のあることと考えます。



2000年6.15共同声明発表

### 2000年6月15日南北共同宣言

南北首脳は分断の歴史上初めて開いた今回の対面と会談が、お互いの理解を増進させ南北間関係を発展させ、平和統一を実現させる重大な意義を持つと評価し、次のように宣言する。

- (1) 南北は国の統一問題を、その主人である我が民族同士でお互いの力を合わせ、自主的に解決していくことにした。
- (2) 南北は国の統一のため、南側の連合制案と北側の初期の段階での(高麗)連邦制案がお互い、共通性があったことを認め、今後、この方向から統一を志向していくことにした。
- (3) 南北は今年8月15日に際して、離散家族、親族訪問団を交換し、非転向長期囚問題を解決するなど、人道問題を早急に解決することにした。
- (4) 南北は経済協力を通じて、民族経済を均衡的に発展させ、社会、文化、体育、保健、環境などあらゆる分野での協力と活発化させ、双方の信頼を固めていくことにした。
- (5) 南北は以上のような合意事項を早急に実行に移すため、早い時期に当局感の対話を開催することにした。

金大中大統領は、金正日国防委員長がソウルを訪問するよう丁寧な招請し、金正日国防委員長は、今後適切な時期にソウルを訪問することにした。

2000年6月15日

改めて読み直しても、この宣言内容に何の問題もありません。15年経過して、長期囚問題だけが解決し、離散家族問題は一進一退で、経済協力・民族経済に関しては、開城工業団地だけが具体化しています。この工業団地には、5万人以上の北側労働者が従事している事実と10年以上経過した事実は大いに評価してもいいでしょう。

人々が去来するから 거래 (取引) 出来るのであって、거래=去来こそが原点にあるべきです。開城工業団地がその重要性を如実に示しています。

南側の余剰米と北側の豊富な鉱物資源との 거래すらがなぜにできないのでしょうか。非武装地帯をトラックが南北へ去来すれば済むことではないのですか。

南北権力の都合だけで、民衆の生命、生活が犠牲になっているとすれば、それこそ権力の名に値しない権力といわねばなりません。

6.15宣言は、去来したからこそ協商が成立したものです。

南北料政府は、15年前の約束の原点に帰り、一つ一つ具体化することを願うばかりです。

# 情勢 正世 관북 70돌, 6.15 공동선언발표 15돌 민족공동행사 준비위원회 발족 기자회견



6.15共同宣言15周年記念南北共同行事の開催を發表する南側委員會。韓国政府の反対で実現しなかった

## 今こそ、統一へのビジョンを!

韓国問題研究所所長 康宗憲

年初から「節目の年」だと強調されてきた。2015年は、朝鮮民族が日本帝国主義の植民地支配から解放されて70年、『韓日条約』締結から50年に当たる。そして、初めての南北首脳会談と『6.15南北共同宣言』から、15年を迎える年だ。南北の両政府と民間団体は、6月15日と8月15日に民族共同行事を開催し、平和統一への一大転機をもたらす意向を表明してきた。しかし南北関係は今、当局間の対話が中断され相互に批難と威嚇を繰り返す最悪の状況に陥っている。

切断された道路と鉄道を連結して南北が頻繁に往来していたのは、まだ7~8年前のことだ。決して遠い昔話ではない。なぜ、南北関係はここまで悪化したのか。その原因を考察し、状況を好転させる道を探ってみたい。

### 3大合意文書の前提は?

南北の当局間ではこれまで、1991年の『南北基本合意書』、2000年の『6.15南北共同宣言』、2007年の『10.4南北首脳宣言』といった文書が交わされている。これら3大合意文書に共通するのは、①相互の内政不干渉と体制の尊重(誹謗中傷の禁止)、②相互不可侵と武力の不行使(停戦協定の順守)、③経済協力と民間交流の活性化(民族構成員の交流・往来を保障)など、南北関係を「不信と対決」から「和解と協力」へと転換させる意志である。

政府当局にこの意志があれば、どのような政権であれ南北関係を改善し朝鮮半島の平和統一に寄与できる。『南北基本合意書』を締結したのは保守的な盧泰愚政権だった。米ソ冷戦後の新たな国際環境の下で、南北の

共存・共栄を志向する合理性を備えていたからこそ、盧泰愚政権は『南北基本合意書』や『朝鮮半島非核化共同宣言』、そして南北の国連同時加盟を達成したのだ。

しかし、金大中・盧武鉉政権の和解・協力政策は継承されなかった。後を継いだ李明博政権は、“北の政権が早期に崩壊する”との認識から「吸収統一」の可能性に執着した。「非核・開放・三千」政策がその典型であろう。北の核廃棄先行と体制転換(民主化)を前提にすれば、南北関係は悪化せざるを得ない。先に述べた3大合意文書の精神や、北の核放棄と米朝関係正常化を同時推進する六カ国協議の合意(2005年、第4回共同声明)にも反するからだ。南北間の不信と敵意を決定づけたのは、2010年の天安艦沈没事故だった。“北の犯行”と断定した李明博政権は「5.24措置」を發表し、開城工業団地を除く南北関係の断絶を宣言する。そして同年10月、北からの延坪島砲撃事件によって、韓国市民の対北世論も急速に悪化した。

朴槿恵政権は当初「朝鮮半島の信頼プロセス」を掲げたことから、南北関係の修復に向かうと期待された。しかし、具体的な提案はなく「北が先ず信頼に値する行動を見せよ。そうすれば南も北を信頼する」という待機戦術に留まるものだった。「経済力や民主化のレベルで北よりも優位にある」と自負する現政権にしては、あまりにも消極的な姿勢といえよう。結局は北に譲歩と屈服を強いる政策であり、「南よりも劣る」と見なされた北が受け入れるはずもなかった。ちなみに『6.15南北共同宣言』第4項は、「南と北は…諸分野での協力と交流を活性化し、相互に信頼を



構築していく」と謳っている。決して、どちらか一方の先行措置を規定していない。

加えて、「信頼」を掲げる朴槿恵政権の下で南北間の「不信」が深まったのは、前政権と同様に「金正恩政権の早期崩壊論」に囚われているからだろう。「吸収統一の早期達成」が目標なら、北との対話・交渉を真摯に展開するよりも、韓米同盟に依拠した対北圧力の強化を優先することになるからだ。極右団体が散布する「対北宣伝ビラ」に予算を提供し、平和統一を主張する団体・人士を「従北勢力」として弾圧するのは、現政権の目指す統一がどのようなものかを、端的に示している。

メディアが「北の悪魔化」に専念していることもあって、南の対北認識は後退している。「統一」はもはや、韓国市民にとって希望のメッセージではないようだ。しかし筆者は、だからこそ「分断への馴れ」を拒み、「統一のビジョン」を語り続けようと思う。

## 統一朝鮮のビジョン

朝鮮民族にとって、35年間の植民地支配は屈辱の期間だった。だが、その後の分断は70年に及ぶ歳月であり、今も続いている。その苦痛は測り知れない。統一を単に「ゴール（到達点）」として捉えるなら、一方が他方を制圧・吸収する「ベトナム・ドイツ式」の統一を想定するしかないだろう。しかし、両体制の平和共存と交流・協力の拡大を通じた漸進的な統一を目指すなら、「朝鮮式」の「プロセス（過程）」としての統一ビジョンを描くことができる。『6.15南北共同宣言』の第2項が、統一方案として「南の国家連合案と北の緩やかな連邦制案の共通性」に着目したのは、まさに「朝鮮式」統一の特徴を正しく理解したからである。

南北関係が悪化した2010年以降にも、開城工業団地だけは辛うじて維持されてきた。当初の壮大な計画からすれば、開城工団の現状は忸怩たるものだ。しかし開城は、南（資本と技術）と北（資源と労働力）の合作という統一のビジョンに関し、具体的なイメージを抱かせる唯一の場所である。北の労働力に対する低すぎる評価は適切に是正されるべきだが、低賃金が国際的な比較優位の要因であることも否定できない。幾つかのデータを紹介する。

開城工団の労働者には、月額約70ドルの賃金が支給されている。ベトナム：150ドル、中国：200～400ドルの半分にも満たない水準だ。賃金の引き上げ率も、ベトナム：年7～15%、中国：同10～17%に対し、開城公団は10年以上にわたって5%に固定されている。また、生産性と品質水準への評価も高い。韓国内の企業生産性を100とした場合、開城工団：77、中国：69だ。品質水準も開城工団：85、中国：83で、ともに中国を上回る。

5月6日、『現代経済研究院』が69名の専門家を対象に実施した「2015年、南北関係の懸案に関する調査」によると、87%が開城工団の事業拡大を支持したそうだ。韓国社会では今、「青年失業率」の増大が深刻な問題になっている。朴槿恵大統領は、父親に倣い中東諸国への労働力派遣を解決策として提示した。だが、2万5千kmも離れた中東ではなく、ソウルから僅か70kmの距離にある開城工団にこそ、青年たちの働き場所を設けるべきだろう。平和統一へのプロセスとなる工業団地を、分断の象徴である非武装地帯周辺に10ヶ所ほど建設すれば、「北の脅威」という虚構は消え去るしかない。「共に生きる」実体を積み重ねることで、南北の民衆は「分断の苦痛」と「戦争の恐怖」から解放されるからだ。

面積が約22万平方kmの朝鮮半島に、180万人（南：70万人、北：110万人）もの正規軍が軍事境界線を挟んで対峙している。その数は世界一の軍事大国、アメリカ合衆国の正規軍よりも多い。おそらく、世界で最も軍人密度の高い地域が朝鮮半島であろう。ちなみに、東西ドイツは分断状況で80万人の軍隊を保有していたが、1989年8月の『ドイツ統一協約』で37万人に縮小した。現在は24万人の規模だという。

李明博政権の「5.24措置」から5年目となる5月24日、15カ国から集まった女性たちが朝鮮戦争の平和協定締結を求め「国際女性平和行進」を展開した。当初は板門店経由で非武装地帯を北から南へ行進する計画だったが、南側地域を管轄する国連軍司令部が許可しなかったため、京義線道路に沿って南に入国した。朝鮮半島分断の現状を告発し、平和への素朴な願いを自らの行動で実践した女性たちに、心からの敬意を表したい。

だが、彼女たちに認められた行進の自由は、祖国の平和統一を願う南北海外の同胞たちにも認められるべきであろう。6月15日は目前に迫っているが、民族共同行事の開催は赤信号が灯ったままである。せめて解放70周年の8月15日に、南北を自由に往来する平和行進を実現させたものだ。





戦後70年  
日韓50年  
条約

# この国は今どこに向かっているのか？

磯貝治良



内海愛子・大阪経済法科大学特任教授(左から3人目)、和田春樹・東京大名誉教授(左から4人目)、田中宏・一橋大名誉教授(右端)らが8日、東京の参議院議員会館で記者会見を行い「日韓歴史問題に関する日本知識人の声明」を発表している。

日本がアジア太平洋戦争に敗戦した1945年、わたしは小学校2年生だった。8月15日、小さな漁港のある田舎町で「玉音」放送を聞いた。線香を製造する家におとな数人が集まってラジオをかこむのを、格子窓の外から覗いていた。天皇が何を喋っているのか、もちろん分からなかった。1、2年生でどんな教科書を習ったか、それ以外のことも含めてほとんど記憶にない。なのに、あの場面ははっきり憶えている。わたしの「戦後」は、あの情景から始まった。

だから、わたしの生活史／精神史はこの国の戦後史と併走してきたことになる。高校3年の“卒業旅行”はマッカッカの社会科教師に連れられての「砂川闘争」の現地。大学時代は「警職法闘争」と「60年安保闘争」。社会に出てからは労働争議の「東プラ闘争」。そして1970年以降から切れ目なくつづく社会／政治運動らしき活動。文学の活動はそれと分かちがたく重なって、二足の草鞋が60年近くつづく。

## 自壊に向かう？「政治の墮落」

敗戦から70年を経た今、日本は国のかたちを一変させようとしている。安倍政権がやみくもに暴走している。

戦争できる国づくりへの執念。直近の政治状況に限っても、その外堀固めの「秘密法」、本丸の集団的自衛権の行使。その実行マニュアルの「安全保障法制」。まぎれの

ない「戦争法」なのに、名付けて「平和安全法制整備法案」と「国際平和支援法案」。やたら「平和」「安全」「国際」「支援」の文字が踊るのは、「積極的平和主義」を筆頭とする安倍晋三流の騙(だま)しのテクニック、あるいは言葉の偽装である。

なるほどと思った話を一つ紹介する。ノンフィクション作家吉田司があるエッセイで古賀義章『アット・オウム』という記録写真集を取り上げて、40代男性元オウム信者の言葉を引いている。だから、ここでは孫引きになる。

「麻原さんは安倍首相とダブってみえます。景気の悪かった日本を立て直すためにアベノミクスという教義を持ち出して、日本人はそれを信じて邁進しています。近隣諸国と敵対しているような状況を作り出し、戦争の準備を始めています。武装化という意味でもそっくりではないでしょうか」

元信者の言葉を引用したうえで、吉田司は次のような麻原彰晃の《戦慄の予言》を思い出す。〈本当に平和を保持するためには、本当の軍力が必要である。…強力な軍隊にすべきである。そのときが、わたしは来ているように思われる〉。麻原／オウム真理教がテロルによって権力を「奪取」しようとした妄想の原点思想だ。吉田のエッセイは次の言葉で結ばれる。「麻原こそ最初の積極的平和主義者ではなかったろうか」。



安倍晋三が麻原の二代目というもチンケだが、首相が最近、夢に見るのは祖父岸信介ではないらしい。近頃の風姿、振る舞いから想像するに、夢のなかでうっとりと思惚れているのは、アドルフ・ヒトラーではあるまいか。

いずれにしても、この国／社会を暗雲のように覆っている息苦しさ、不気味さ、きな臭さ、理不尽の元凶が、翁長雄志沖縄県知事がいみじくも喝破したように「政治の墮落」にあるのは間違いない。

## もうひとつの責任は誰にあるか？

自民党保守本流の政治は戦後、曲がりなりにも戦争体制回避と議会制民主主義を(時に形骸化させることがあったとはいえ) 標榜してきた。安倍政権は現代版国粹主義と隸米一辺倒という二律背反をトリッキー(自己撞着的)に“婚姻”させて、国会無視の手法で先行政治を総チャラにしようとしている。「戦後レジームからの脱却」などと僭称して。沖縄には「戦後レジームの護持」を押し付けて。

いま当面、為さねばならないのは安倍政権を退場させること。その役割は勿論、その登場のために率先した、有権

者という名の大衆にある。安倍政治の口だけ番長ふうの口舌、張りぼての権力誇示、詐術テクニックに浮かれつづけるのか。その虚妄を暴露して一転、逆攻に転じるのか。使い古された運動の“制服”を脱いで、民衆の知恵と行動を発揮できるか。日本国民と呼ばれるわたし(たち)にそれが問われている。

## 東アジア平和の危機へ？

日韓(韓日)条約から50年でもある。

わたしなりの戦後責任を考えながら、日本国を被告とする戦後補償裁判に関わってきた。この国の司法と政治権力は、牢固な理屈に執着しつづけている。日韓条約の「請求権協定」によって、個人のそれも含めて「解決済み」という主張だ。この国の大衆の歪(いびつ)な歴史認識がそれを下支えして、50年経た今も戦後補償を忌避しつづけている。

その戦後無責任の系譜が、現下の戦争できる国へのあらたな野望を生んだ。アメリカ型帝国主義のミニチュア版をめざして向かっているのが、東アジアの平和構築を阻害して、朝鮮半島の南北和解そして統一をさらに妨害する道なのは、誰の目にもあきらかだ。

どう鼻真目に見ても、戦後70年のわたし(たち)の責任が猶予されるとは思えない。もはや行儀のよい“反対運動”は無効になりつつある。国家権力が嫌がる、トリッキーなレジスタンスの作法を考え出さなくては。

### 日本の歴史団体、慰安婦問題の歪曲中断を求める声明

「強制連行された慰安婦の存在は、多くの史料と研究によって実証されてきた」

「慰安婦問題に関し、事実から目をそらす無責任な態度を一部の政治家やメディアがとり続けられるならば、それは日本が人権を尊重しないことを国際的に発信するに等しい」



久保亨歴史学研究会委員長(右から2番目)をはじめ、日本の歴史学者たちが5月25日午後、東京千代田区衆議院第2議員会館で日本歴史学協会など日本の16の歴史関連団体名義で慰安婦の女性たちが「本人の意思に反して」動員されたとし、これを「強制連行」と理解すべきだという見解を盛り込んだ声明を発表している。





# 真相究明と正義の実現を

韓基徳

コンテナハウスのマウルがあった。こと安山合同梵香所を毎日バスが往復している。バスの近くにいた方に、バスの発車時刻を確かめようと思い、運転手さんですかと問いかけたら、そうだという。二言三言言葉を交わしていたら、食堂に入ってお飯を食べていきなさいという。ともかく寒くて堪らなかったのも、お言葉に甘えた。大学路から来た演劇人のグループが10人ほどが食事をしてた。先ほどバスの運転手と答えた方は、実は高校二年生の息子を失ったアボジだとわかった。

1月7日、日帰りで珍島に行ってきた。年明けにソウル出張を入れていたが、一日は、珍島に行こうと決めていた。この忌まわしい事件を忘れないために。心に刻むために。急に冷え込んだという日で、突堤に立っていることさえも拒むような強い風が吹いていた。先端にある灯台まで歩いていくその両側には、全国から弔問に来た個人や団体の横断幕やリボンがびっしりと掛けられていた。その一つ一つを読みながら歩いた。水曜日であったので、訪れる人は多くなかったけれど、来られた人々は皆、無言。互いに会釈をするだけ。話をするなどできない… 天国の郵便受けというのがあって、その隣の箱の中に便箋と封筒とボールペンが入っていた。私も、子どもたちに手紙を書いて投函した。

この突堤と向かい合わせるところに、ご遺族の方たちの



午後4時発のバスに乗り、安山合同梵香所に到着したのは9時を過ぎていた。

この梵香所は、このために作られた巨大なドーム。中での撮影は遠慮するほかなかった。

中には、犠牲者295名の一人一人の遺影が掛けられていた。一歩足を踏み入れた瞬間、体中が震えた。右手にあった大きなスクリーンに犠牲になった高校生その他の人々が一人ひとり映し出されていた。その中に、一目で外国人とわかる子やいわゆる混血の子たちが何人もいるのに驚いた。檀園高校のある地域は工場労働者の家庭が多い低所得者の町。韓国で言う多文化家庭も数多くあるのだ。もしもこの子達が江南の富裕層の子どもたちだったら、こんなふうには死ぬことはなかっただろうと思うと胸がつぶれた。

私たちは、この惨事、事故ではない事件!! をしっかり胸に刻んでいかななくてはなりません。

そう固く誓って、この場を離れた。

セウォル号沈没事件(2014年4月16日発生)

搭乗者 476名、救助者 172名、

死亡者 295名、行方不明者 9名







解放70周年・光州民衆抗争35周年／6.15共同宣言15周年



# 川べ神命 マダン劇 スルレソリ

## 代表挨拶

川べ神命 代表 吳淑賢

6.15共同宣言15周年を記念する席に《川べ神命》を招請していただき感謝申し上げます。

韓半島の統一と平和のために日本で行動する《三千里鉄道》をはじめとする在日同胞の皆さんに心より敬意を表します。私たちが互いに両手を取り合って、歩いて、走って、向き合っ、民族共同体の“興”をおこすことができるよう、祈ります。

## 川べ神命

1982年に創団され、光州全羅南道地域を基盤として活動している。地域マダン劇の最初の作品“さつまいも”に始まり、'安奴婢の物語'、'立ち上がる人々'、'いつか春の日に...'など、作品を通じて'全羅道マダン劇'の典型を受け継ぎ、定期公演と全国巡回公演を通じて、マダン劇専門芸術団体として位置づけられている。

## 作品概要

作品名：マダン劇《スルレソリ》

出演者：俳優／オスグン, 지정남, 김은숙, 김혜선, 정찬일, 김호준, 홍지현, 소충섭, 백희정, 박해라, 이셋별

楽士／김종일

企画・音響：한은주 演出：박강의 公演時間：80分

## 作品介绍

マダン劇《スルレソリ》は、韓国の民俗芸能である“カンガンスルレ”を作品化の基本の幹として、韓国の屈曲した近現代史を表現した。壬辰倭乱(豊臣秀吉の朝鮮侵略)と日帝侵略など外勢の侵略、朝鮮戦争と5.18光州民衆抗争として現在までのとうとうたる歴史の流れの中で、厳しく困難な時代ごとにその真価を発揮した民衆の共同体の力を歌と遊びを通じて表現した。

## 前マダン

육신 악신 뛰어나 보세

演者が登場してお祈りの舞をします。

## 第1マダン

남생아 놀아라

壬辰倭乱が起こると、村の人々がすすんで外敵に対抗し一緒に戦う。

## 第2マダン

어서 가자 고향에

日章旗を先頭に日本の軍人が村に入ってきたので、人々は村を脱出して、解放のために命を懸けた抗戦が繰りひろげられる。

## 第3マダン

새신랑 새각시 되었네

解放を迎えた村の人々が帰ってきて、村には久しぶりに笑い声が響く。

しかし、間もなく朝鮮半島は戦争の狂気に包まれ、村人たちは理由もわからないまま洞窟に連行される。

## 第4マダン

어디만큼 강가 당당 멀었네

朴正熙政権18年の独裁が終わり、5・18光州民主化抗争を経験し、民主化のために一歩ずつ歩んでいたが、歴史の車輪は再び逆方向に進む。

## 第5マダン

남한산성 도착이야

新世紀を迎えた現在、資本と権力は人々を無限競争の構図の中に追いやり、村の共同体は壊れ、個人の生は破壊され蹂躪される。

## 後マダン

귀자 귀자 마음의 실을 귀자

人間性を回復して共同体を正しく立て直すために人々の意志が集められる。踊りを通じて、未来世代である子どもたちが良い暮らしができる健康で安全な社会を祈る。





# 川へ神命 マダン劇

# 스르레소리

2000年6月、金大中大統領が平壤に飛び、金正日国防委員長と直接会談し、6.15共同宣言が発表された時、私たちは、これでやっと南北の和解と平和の時代が到来したと喜び、統一の夢に胸を膨らませた。

2007年5月、京義線が復元され試験運転がされた時、私たちは、人々が南北を往来し物資が行きかう姿を想像し、釜山から汽車に乗ってソウル、平壤を経て、ユーラシア大陸を横断する夢に胸を膨らませました。しかし、2008年に李明博政権が誕生し、6.15と10.4の二つの南北共同宣言が無視されるにいたり、南北関係は冷え去り、2007年5月を最後に離散家族再会事業も途絶えてしまいました。

朴槿恵政権になったのちも南北関係は悪化の一路をたどるばかりです…

三千里鐵道は、6.15共同宣言以来毎年記念行事を開催してきましたが、今年は、光州からノリベ神命を迎え、マダン劇《スルレソリ》を上演いたします。韓国の近現代史を伝統芸能カンガンスルレに乗せて振り返ります。ぜひご来場ください。

놀이패 신명 제40회 정기공연 **마당극**

# 슬레소리

육신악신뛰어나보세



## プログラム

- 主催者挨拶 ■ NPO法人三千里鐵道都相太理事長
- 記念講演 ■ 康宗憲 韓国問題研究所所長
- 記念公演 ■ ノリベ神命 マダン劇《スルレソリ》

入場券 2,000円

## 名古屋公演

2015  
**8.5** 水  
PM6:30 ▶



**ちくさ座**(千種文化小劇場)

名古屋市千種区千種3-6-10 地下鉄桜通線吹上駅 徒歩3分

## 大阪公演

2015  
**8.7** 金  
PM6:30 ▶



**KCC会館大ホール**

大阪市生野区中川西2-6-10

主催◎ノリベ神命日本公演実行委員会 主管◎NPO法人 三千里鐵道  
連絡先◎名古屋公演 0532-53-6999 大阪公演 080-3777-2566(呉)